2019年6月22日

スウィングル、田中長三郎関連調査の概要

松居竜五　rmatsui@world.ryukoku.ac.jp

1　これまでに刊行された研究成果

① 川島昭夫「田中長三郎書簡と「南方植物研究所」」『熊楠研究』第2号、2000年、181-205頁
② 川島昭夫「田中長三郎書簡と「南方植物研究所」（承前）」『熊楠研究』第4号、2002年、174-226頁
③ 川島昭夫「田中長三郎書簡と「南方植物研究所」（補遺）」『熊楠研究』第11号、2017年、100-138頁
④ 川島昭夫「コレクションの帰趨―オットー・ペンツィヒ、田中長三郎、南方熊楠」『書物学』10、24-31頁、
⑤ 松居竜五「南方熊楠宛スウィングル書簡について」『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』第7号、2005年3月、149-156頁
⑥ 【資料紹介】本多真・松居竜五「南方熊楠宛スウィングル書簡」、『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』第7号、2005年3月、157-187頁
⑦ 松居竜五「田辺時代の南方熊楠の海外との交流：W・T・スウィングルを中心として（第9回南方熊楠ゼミナール）」『熊楠works』No.43、2014年、25-28頁
⑧ 松居竜五「米国連邦議会図書館蔵　南方熊楠からスウィングルに贈られた絵巻物一式」『熊楠works』No.52、2018年、26-31頁
⑨ 松居竜五「南方熊楠からスウィングルに贈られた「山の神草紙」について」『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』第21号、2019年、印刷中
⑩ 南方熊楠顕彰館「第52回月例展 熊楠とゆかりの人びと「田中長三郎」展」小冊子、2019年
⑪ 南方熊楠顕彰館「第53回月例展 熊楠とゆかりの人びと「スウィングル」展」小冊子、2019年

2　刊行されていない主な研究成果

⑫ 2017年9月および2019年3月の松居によるワシントン国立文書館における調査。→目録に関してはすでにデータベース化済み。内容調査はこれから。
⑬ 2018年8月の川島、松居、志村による台湾での田中長三郎関連調査。→『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』第22号に刊行予定。
⑭ 2019年6月23日の海南市橘本神社の常世館での調査（明日！）。

3　確認されている主な関連資料

書簡類

A1 南方熊楠からスウィングルへ贈られた「山の神草紙」、標本、書簡一通が米国連邦議会図書館に所蔵。⑧⑨
A2 スウィングルから南方熊楠への書簡24通が顕彰館に所蔵。⑤⑥
A3 南方熊楠から田中長三郎宛書簡はすべて原本未発見。
A4 田中長三郎から南方熊楠宛書簡は計68通を顕彰館が所蔵。①17通②20通③30通
A5 スウィングルから田中長三郎宛書簡約20通を米国国立文書館が所蔵。⑫
A6 田中長三郎からスウィングル宛書簡約90通を米国国立文書館が所蔵。⑫
A7 田中長三郎と農務省の他の研究員などとの間の書簡100通以上を米国国立文書館が所蔵。⑫

その他

B1 南方熊楠はスウィングルや田中についてさまざまなところで言及。
B2 顕彰館はスウィングル撮影の写真などの資料を所蔵。
B3 国立公文書館、マイアミ大学図書館はスウィングルの関連資料を多数所蔵。⑫
B4 台湾大学は図書館や校史館などに田中長三郎の資料を所蔵。また田中が在職していた時期の名残がさまざまなかたちで残されている。⑬
B5 台湾大学名誉教授の蔡文里氏は田中長三郎の愛弟子。田中長三郎に関する小文やインタビューでその人となりを明らかにしている。⑬

南方熊楠とスウィングル：異邦から来た理解者

1903年7月18日の土宜法龍宛書簡
「さて顕微鏡で見るに、全く夢に見しピソフォラなるのみか、自分米国で発見せしと同一種なりし」（『南方熊楠・土宜法龍往復書簡』311頁）

1906年10月27日付けのスウィングルから熊楠への最初の書簡
ところで、貴兄はピトフォラ・オエドゴニアをフロリダのジャクソンヴィルで見つけられたことを知りました。もしこの標本を少しお分けいただけるならたいへんありがたいです。ワシントンの自然史博物館のアメリカ藻類コレクションに加えたいと思います。

1909年8月5日のスウィングルが熊楠への米国招聘に関する書簡
手紙で行ったり来たりのやりとりをすることにかかる時間を考えると、思い切って貴兄にお尋ねしてみたいことがあります。もし私が思い描くような調査のためにすべての時間を費やしていただけるとするならば、どのくらいの給料をお支払いすればよいでしょうか。そして、そのためにワシントンまで来ていただくお気持ちはあるか、それとも日本か中国で仕事をされることを望まれるでしょうか。

1918年11月24日の熊楠の日記
夢ニ龍神ノ湯ニ遊ブ、ソレヨリ眼サメ、又睡ル、夢ニスイングル氏来リ、コレヨリ果無シ山ニ遊ブトテ靴ハク、又中松安枝女来ル、無言也、コレハ前年ス氏ト斗鶏社ニ詣リシ時安枝女来リアリシ縁ニヨルカ。

南方熊楠と田中長三郎の関係：食い違ってしまった学問観

A

友人（只今九大の農芸部講師）田中長三郎氏は、先年小生を米国政府より傭いにきたとき、拙妻は神主の娘で肉食を好まず、肉食を強いると脳が悩み出すゆえ行き能わざりし時、田中氏が傭われ行きし。この人の言に、日本今日の生物学は徳川時代の本草学、物産学よりも質が劣る、と。これは強語のごときが実に真実語に候。むかし、かかる学問をせし人はみな本心よりこれを好めり。しかるに、今のはこれをもって卒業また糊口の方便とせんとのみ心がけるゆえ、おちついて実地を観察することに力めず、ただただ洋書を翻読して聞きかじり学問に誇るのみなり。それでは、何たる創見も実用も挙がらぬはずなり。

B

次にアマチュールの研究の事、貴説に大賛成に有之候　拙者の如きも正にアマチュールの分類に属候　大学先生の仲間入は出来ざる方故研究所を目論見居るにて候、大学先生も官吏にて種々の行懸りにて役人になった人、出発当所［初］から特に別の畑に育った人のみに候、拙若の如く外道数年、自分で何もかもやる人間はどうしても別仕立の人間と見做され到底一大学などに入れぬものにて候、然らば個人で貴下の如く獨勉強して居てはよいでないかと曰はるゝならんも　拙若の見る所は「個人の力」よりもorganized effortの方有力にて、落語家の掛持とは比較にならず、この"organized"と云ふ事は大戦後の大発明にて其の以前の虚名には非ず、非常の偉力ある事を知り、大にorganizedされたる勉強をしようと心懸居るにて御坐候。organized effortは決して無力の個人を集めて有力なるものを作ろうと云ふには非ずindividual initiativeをどこまでも尊敬し、encourageし、之を一般階級にavailableのものにするを目的とするにて、有為の材を中心にして其の仕事を"organize"し利益を万人に分たんと企つるにて候。即協戮cooperationと云ふ新語の意義は烏合の衆のより合にあらずして一の力ある人が二人よりて二以上の力となると云ふにて、毛利元就が三本の矢を子三人に一所に折らしむるに誰も得折らざりしと云ふ如きを云ふにて　即Esprit du corpsと云ふ精神はこの頃漸く正解されたものに有之候。早い話が個人自発の研究、殊にアマチュールの研究はどこまでも奨励するを要すれど貴下が五百金を投じて書を得るも其の書は貴下自用とする事なれば貴下の研究を終られし時其の書は價値の半分を失ふ事となり、非常なuneconomicalの事になれど　之を團体の有とし、適当の保存法を講じあれば其の價値は増すとも減る事はなし、私有たると公有たることは変りなき如きも拙者のorganizationには大差あり、書籍ならば立派なcard indexもあり、charge, dischargeも規則立ちヤムヤに消滅したり闇の資となったりする事無之候、

C

貴下は個人の寄附を歓迎し、貴下の労作を其の人に返すと云ふ御考なるも、この点は拙者と考へを異にするにて御坐候、又貴下の如きアマチュールありてorganization中の人とならざるは他のアマチュールの模範となり新しきアマチュールを作る一素因となる様御記しありしも、実は拙者も貴下のアマチュールに引き付けられ、貴下の為めに啓発され、貴下の如く自業を精励せんものと思ひ居るも、如何にせん貴下使用の図書標本は貴下の私有にて何等拙者の学問を助け得ず、よし拙者の知るもの百人貴下の弟子として集まるも恐らく同感と存じ候、然るにもし貴下の研究費を法人より提供し、貴下所用の図書がよしんば一年一千圓を越ゆると雖も夫が法人に属すれば直ちに拙者如きものの利用し得らるゝ事貴下が大英博物館の世界第一位にある図書コレクションを利用し得られしと同一の便宜を得、貴下聚集の教文献が皆活きて来る事と相成候　其の方アマチュールを集め教養するには有力と相成可候、」

D

○ペンチと書庫は植物志及古典に豊み居るも特種の分類書は甚だ少なし。而して幸に蒐集しやすき英米書に乏しく、集め難き伊佛書甚だ多し。過般チェックを願ひし農務省の書目の約半分はこの中にある見込、而して彼の書目になきもの約其の半分に相当する故植物書は農務省に対抗出来る考に候。

○猶スキングル曰に若し何人か金を出してフォトスタット器を購入し（價約二千五百円）日本にてス氏の為めに和漢書を写し送るならば交換的に如何なる珍書も写し送る可しと曰くり。此器学者の最大武器、是非研究所になかる可からず。何人か出資者御物色をこふ。之あらば学術の征服いとやすし。

追加2

○日本の如き文明立ち遅れの国は餘程異常の事をせねばとても世界に追つきて自ら文明に寄与をなし得ざる可し。欧米の分類学者が使用するだけの書物はとても日本では使くぬとあきらめ せめて人用の所の写真を持帰らんと思ひ先年も種々苦心し候幸に数百枚を持帰れり。今回ペンチとを得て有用書大部分を得たるも猶小冊の珍籍世界に部数限りあつて得難きの多々あらん。之等はスキングルの如き有力なライブラリアンと交換ニテ写シ取ルヨリ他ニ方法なし。例ばOsbeckのDagboekとかWallichのNumelical listとかRafinesfueのSilva terrilianaとか皆然り。即フォトスタット器を持つことはやがて完全なる書庫を作る唯一手段たる可し。我等は日本を世界並にした。（世界一と思ひ度きも）、現状は数十百歩遅れ居れり、追ひ付く道は拙者等知れり、唯識者ありて助力するあらば必ず成らん。偶に有力家の着眼を祈る。

E

小生米国に在し頃（三十年前）、米国の大学に植物学教室と申すもの一二しかなく、其学は実用実益のみを主唱し、細胞の組織のといふ事は申さざりし。言ても聞くものなかりし也。因て欧州に住て後ち其学問をする事とし、未開の地多ければ自分で実物を自修し、多く材料を集め申候。

F

とうも田中氏の志す所、日本の科学を西洋と同程度に引挙るとか何とか、浩瀚として小生には分らず候。日本の科学を西洋と同程度にする抔申す事は政府、又大有力の人のすべき事にて、吾々一二人の力に及ぶ事に無之、又古書籍や小冊子切抜き抔を無数集めたりとて成る事に無之候。

スウィングルと田中長三郎：師弟にしてライバル

カリフォルニア大学のウォルター・T・スウィングル（一八七一～一九五二年）は野生種を重視して、カンキツ（Citus）属に一六種を設定した。これに対して、その門下で神戸出身の田中長三郎（一八八五～一九七六年）は園芸品種も種に加えるべきだとして一五九種を命名している。たとえば、ライムの学名の命名者の部分は、*Citus aurantifolia* Swingle、イヨカンでは *Citus iyo* Hort. et Tanakaであり、分類に大きな貢献をしたことがうかがえる。ただし、スウィングルの体系と田中の体系では分類基準が異なる場合があり、この分類体系の統一についての議論が今でも多くおこなわれている。

W.T. Swingle (1967) *The Botany of Citus and its Wild Relatives*. Reuther, W., H.J. Webber, and L.D. Bachelor (Ed.) *The Citus Industry* vol.1 *History, World distribution, Botany and Varieties* (Revised Edition), University of California, Berkeley Calif. USA pp.190-430.

（鵜飼保雄・大澤良『品種改良の日本史　作物と日本人の歴史物語』悠書館、2013年、366-367頁）